

武内清・敬愛大学特任教授らの研究グループがデジタル教科書に関して教員と児童・生徒にアンケートを行った。指導者用デジタル教科書の評価は高いが、学習者用については紙の教科書との併用を求める声が多かった。

デジタル教科書 現場は



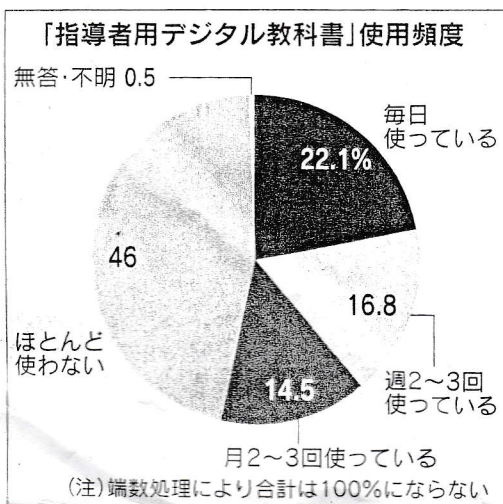
武内 清
敬愛大学特任教授

しかし、いずれ遅れた部分は、進んだ部分に影響され変化する。遅かれ早かれ、学校が情報化の流れに乗るのは必然である。

電子黒板が使われ、紙の教科書はデジタル教科書に変わり、教育方法も様変わりする。教員がチャットと黒板を使い、それを子供たちがノートに筆記する一斉授業ではなく、電子黒板とタブレットによる授業が進む。

社会は領域によって進歩の程度が異なる。進歩が早い領域と遅い領域があり、その間で遅滞や齟齬(そご)が生じる。学校は最も進歩が遅い領域であり、教員の意識も含め社会の最先端からかなりの後れをとっている。特にそれがいえるのは情報化の分野である。し

紙と併用望む教員8割



く力になるであろう。これが、大方が描く学校の未来像である。いや未来像というよりは、すでに実現の試みがなされ、文部科学省も実現の方向を探っている。しかし、これは果たしてスムーズに実現するのだろうか。どのような教育改革もその遂行の過程で、現場教員の支持や納得なしには実現されない。教育現場には教育実践の慣行や文化の伝統があり、それは先人の教育者の知恵と努力の結晶である。新しい教育方法は、既存の教育実践や学校文化と対峙し、検証されて融合が図られる。デジタル教科書に関する識者の意見を聞く機会

電子黒板 生徒にも好評 ■双方の効用検証を

ーを使って各教室で使用可能になっている。指導者用デジタル教科書を週に2~3回以上使っている教員は39%いる。指導者用電子教科書の導入について教員たちは、「紙の教科書ではできない表現が使える(99%)」、「児童・生徒の集中力が高まる(86%)」、「新しい情報を手軽に使える(80%)と高く評価している。中には、「準備などに時間がかかりすぎる」「実際に使う教員が少ない」などの評価もあるが、概して負の評価は少ない。一方、児童・生徒たちの評価をみると、「音や映像で理解しやすくなる(82%)」、「授業に集中できる(56%)と好評である。

このように、指導者用デジタル教科書は、教育現場にスムーズに導入され、これまでの教育実践や学校文化とも摩擦を起さず、教員の教えの補助教材として使え、子供の興味を喚起する方法として歓迎されている。問題は、紙の教科書に代わる「学習者用のデジタル教科書(タブレット)」である。教員は、その導入により子供たちの勉強への興味が増す(89%)、「積極的に授業に参加する(79%)」、「学力が向上する(62%)」など、肯定的に評価するものが多い。ただし、紙媒体の教科書の「廃止を考えている」教員は3%にすぎず、「紙媒体の方がよい」も16%にとどまる。「紙とデジタルの併用(81%)」が望ましいとする併用派が圧倒的に多い。学習者用のデジタル教科書を使ったことがあ「児童・生徒は4人に1人。使用経験者は未使用の子供に比べ、「勉強への興味が増す」「音や映像を体験できる」といった肯定的評価が若干高く、同時に「目が悪くなる」「紙の教科書との併用がよい」と感じている割合も高い。こうした現場の現状を踏まえ、デジタル教科書の未来を考える際の論点を整理してみたい。第1に、貧弱な情報環境とデジタルの知識や技術に乏しい教員のもとで